



牛舎で育つ自慢の牛を眺める馬場勇さん

馬場勇さんは、大正6年3月25日生まれの90歳です。全国でもトップレベルの牛飼いと知られる馬場さんの自宅には、各種品評会で入賞した数々の賞状が飾られています。馬場さんのもとは、全国各地から実習生が訪れます。昔、教えた実習生とは、今でも交流をされているそうです。

馬場さんは、18歳の時に養豚から始められ、その後、農耕用馬の飼育を経て、牛飼いは、終戦後に始められたそうです。求名地区で最初に三輪自動車を購入し、30年間にわたり、毎年、鳥取まで牛を見に出かけた頃もあったそうです。

元気の秘訣を尋ねると「牛飼いとして、一生、仕事を貫くという気持ちです」と話す馬場さん。牛舎はもちろのこと、セリ市があると、今でも自ら自動車を運転し、家畜市場へ出かけます。牛を見つめる馬場さんの瞳は、輝いていました。

一生貫くと決めた牛飼いの仕事を成し遂げたい

元気の秘訣

- その1. 牛飼いとて、仕事を貫く気持ちを持つこと
- その2. 何でもおいしく食べること
- その3. 毎晩、晩酌をすること



求名在住
馬場 勇さん (90歳)

祖先への感謝の気持ちを忘れずに



元気の秘訣

- その1. 祖先に感謝の気持ちをもつこと
- その2. 楽しく、おいしく食事をする
- その3. 趣味を満喫すること

福岡ノブさんは、大正11年11月2日生まれの94歳です。趣味はちぎり絵で、月に2回、山崎高齢者学級のちぎり絵教室に通っています。作品は、数ヶ月かけて仕上げます。自宅には、これまで作った多くの作品が飾られ、その素晴らしい作品が目が引かれます。ちぎり絵教室には友達も多く、一緒に作品をつくり、文化祭に出品することが楽しく、今年も「実りの秋」をテーマに作品を作るそうです。

元気の秘訣を尋ねると、「元気でいられるのも祖先のお陰様です」と話す福岡さんは、毎朝、祖先に感謝し、仏壇に花と水を供えます。毎日、感謝の気持ちを持つことが大切で、特に、いろいろと気遣ってくれる息子達の嫁には、感謝の気持ちでいっぱいだそうです。食事は元気の源で、栄養を考えて作ってくれる嫁の食事をおいしくいただいているそうです。

花生けも元気の秘訣で、福岡さんが玄関に生けた花は、凛と咲き、生き生きと見えました。



文化祭の作品展に向けてちぎり絵に取り組み福岡ノブさん

虎居在住
福岡 ノブさん (94歳)

超高齢社会で共に生きるには

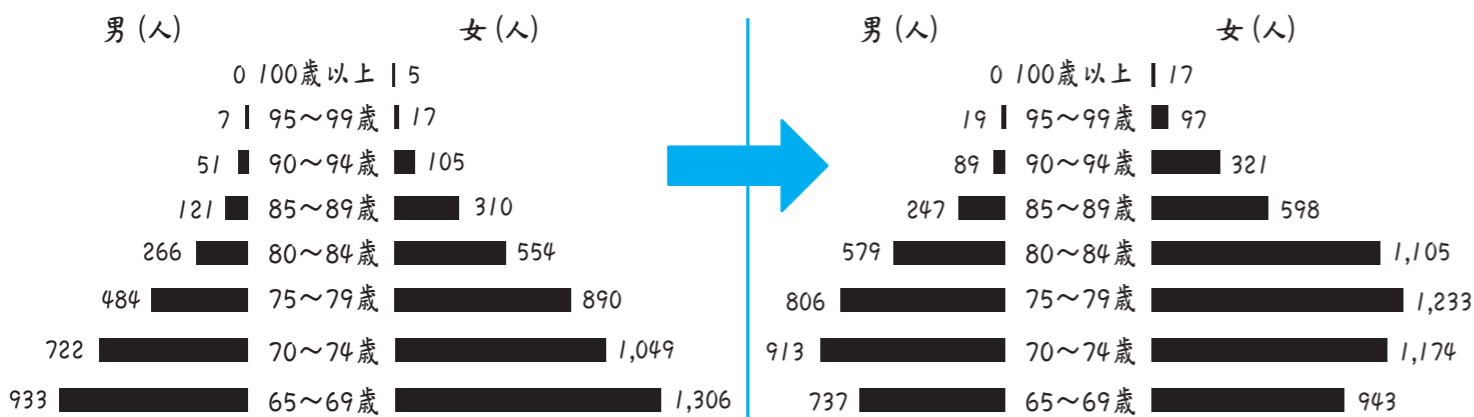
本町の高齢者の5人に1人がひとり暮らしです。私たちは、家庭、地域社会、職場、学校など様々な場面で、高齢者との関わりを深めることが大切です。高齢者の生活を家族のみならず、地域の方々と一緒になって見守っていかねばなりません。

このようなことから、老人クラブ活動や在宅福祉アドバイザーによる積極的な声かけや高齢者が自主的に仲間づくりに参加できるふれあいサロン事業など、高齢者が地域の中で孤立せず、社会とふれあっているよう地域福祉の推進が求められています。

※高齢化社会・高齢社会等の定義
 高齢化社会 (高齢化率 7%~14%)
 高齢社会 (高齢化率 14%~21%)
 超高齢社会 (高齢化率 21%~)

男女別 人口ピラミッド

さつま町 65歳以上



平成2年国勢調査 ※旧3町を合算した計

住民基本台帳人口 ※H19. 8. 1現在

子どもたちから元気をもらっています



泊野在住
宮田 伴造さん (92歳)

宮田伴造さんは、大正4年3月27日生まれの92歳です。昭和40年代の頃、泊野は養蚕の盛んな地域であり、宮田さんは蚕の種を作る蚕種会社に勤められていたそうです。

子どもが大好きと話す宮田さんは、泊野小学校の子どもたちに竹ぼうきやワラ草履などの昔ながらの道具を教えています。また、園児でも使えるグラウンドゴルフ用のスティックを作って、上宮保育園の園児にグラウンドゴルフを教えたりしたこともあります。

元気の秘訣を尋ねると、「自分で料理をして食事をする」と話す宮田さん。妻が、生前作ってくれた料理に感謝しながら、今では自分で料理を作っているそうです。

「今年の5月には水鉄砲を作っていました」と子どもたちの話をする宮田さんの表情は生き生きとしていました。

元気の秘訣

- その1. くよくよしないこと
- その2. 多趣味であり、好きなことに没頭すること
- その3. 体を動かし、汗を流すこと

